

金沢区教育研究会

1 研究主題（テーマ）「社会に開かれた教育課程の創造・実践」

～主体的・対話的で子ども一人ひとりの深い学びを実現する授業を目指して～

2 研究主題について

学習指導要領の改訂により、令和元年度に金沢区教育研究会は研究主題を変更し、令和2年度も同じ主題で研究を進めてきた。コロナ禍の学校においては、これまで通り子ども一人ひとりの思いや願いを大切にしながら、キャリアステージに応じて授業改善に向けた研究を推進することがますます重要になってくると考えられる。

金沢区小学校研究会では、これまでの成果を引き継ぎ、さらに授業の質を向上していきたいと考え、令和3年度は研究主題を「社会に開かれた教育課程の創造・実践」、副主題を～主体的・対話的で子ども一人ひとりの深い学びを実現する授業をめざして～と設定した。

3 研究方法（コロナ禍で工夫したこと含めて記入）

毎月の研究会については、集合型の研究会では参加人数の制限や部会に分かれ会場を別にするなどして、密にならないような工夫を行った。その他にも Zoom ミーティングなどのオンラインを活用して実践提案や講演会を行っていった。

一斉授業研究会A研については、各研究会で参加人数の制限や討議会場の分散化、集合とオンラインのハイブリッド型、事前に授業を録画し、動画を視聴しながらの全体での討議などの工夫を行っていった。B研についてはまん延防止等重点措置期間中だったため、当日の集合開催は中止としたが、授業校には授業の様子を録画していただき、最後のB研開催日に視聴し、意見交換をしていった。

4 年間活動(事業)報告

① 企画会

年度初め 令和3年6月9日（水） 釜利谷南小学校
年度末 書面にて

② 一斉授業研

前期（A研）令和3年11月17日（水） 集合開催（研究討議会はオンラインも含む）
後期（B研）令和4年3月2日（水） 通常B研日に動画視聴による討議

③ 区振興行事

行 事	日 程
区水泳大会	中止
国際スピーチコンテスト 区審査会	6月23日
区児童音楽会（金沢公会堂）	中止
区個別支援合同宿泊学習 （三浦ふれあいの村）	中止
個別合同作品展（いきいきセンター）	1月13日～19日
個別合同学習発表会（金沢公会堂）	中止
区球技大会	中止
区巡回図工展	1月～2月
区巡回書写展	昨年度から実施しない

④ 特色ある研究活動（実技研修・講演会等）

国語： 5月 講演会 8月 研修会
社会： 5月 講演会 7月 ワークショップ「一斉研の構想について」 1月 研修会
算数： 5月 講演会・勉強会 8月 夏季セミナー
理科： 6月・12月・1月 情報提供 7月 講演会（世話人校長による）
音楽： 5月 ICT研修 7月 歌唱法研修 8月 指揮法研修
図画工作： 6月「3観点別評価とICT機器の活用法について」 10月「鑑賞について」
家庭科： 5月 リモート講演研修 12月 講演会「指導と評価の一体化」
体育： 8月 審判講習会 12月横浜市立小学校体育実技発表会 3月 講演会
道徳： 6月 講演会 12月模擬授業
特別活動： 6月 講演会
情報教育： 8月 市研合同研修
図書館： 5月 講演会 9月 読書感想文審査会 12月 読書感想画審査会
学校食育： 5月 給食の様子の報告会
養護： 12月 施設見学「よこはま子どもホスピス」
特別支援： 10月 講演会・勉強会
栄養教諭： 11月・12月 学校食育研と合同研修
生活・総合的な学習： 8月 講演会
外国語： 7月研修会 8月研修会

5 研究の成果と課題（含 第二次研究大会）

今年度もコロナ禍、研究会を行う中で制約が多い1年であったが、子どもたちの学びを止めないためにも研究の歩みも止めないという気持ちで研究をすすめてきた。多くの研究会員が学習会や講演会に参加できるように、オンラインを活用する研究会が増えてくるとともに、実践提案、指導案検討ではオンラインでも多くの方の意見が聞けるように双方向での研究の工夫もしていった。また、子どもたちが学習の中でiPadを活用した取組の提案も増えてきた。まだまだ研究途中ではあるが、自分の思いを伝えることが苦手な児童が、iPadを使うことにより今までよりも主体的に学習に参加できるようになった例や、資料の整理やまとめる活動にICTを活用している様子も聞くことができた。

一斉授業研究会については、前期のA研各研究会、開催方法を工夫して当日開催ができた。人数制限をして授業参観を行った研究会が多かったが、中には、人数制限はせずに体育館に集まり、事前に録画した授業の様子を見ることで、多くの意見をもらうことができた研究会もあった。昨年度はできなかった授業研究会が行えたことは今年度の大きな成果だったと考える。後期のB研の一斉授業研については当日の集合開催はできなかったが、その日に授業を行い、講師の方にもその授業を見ていただき、その学校全体で授業について話し合うことができたという教科領域もあった。その様子を動画とともに最後のB研で研究会員と共有することもできた。

昨年度、今年度でコロナ禍でも学びをすすめていく必要性や研究会の重要性が見えてきた。今後、どのような状況であっても学びを止めないために、研究会をすすめていくことが大切だと感じた。今年度行ってきたオンライン等での研究会開催の工夫は状況が変わっても続けていくことができるものだと考える。さらに研究を深めていくためには、実際の授業の様子を手軽にオンラインで見ることができるよう整備も必要になってくるのではないか。まだまだ制約がある中での研究は続くことが考えられるが、今後もよりよい研究会のもち方について考えていきたい。